


<p>福島大学附属図書館報</p> <p>書 燈</p>		<p>No.19</p> <p>1997. 10. 1 発行</p> <p>〒960-12 福島市松川町浅川字直道2 TEL 0245-48-8083</p> <p>福島大学附属図書館</p>
-------------------------------------	--	--

図書館の「超」利用法を見つけて生活をより面白く

阿部 高樹

大学に目的を持ってやって来た人は、より良い図書館の利用に向けて常にアンテナ張り巡らしていることでしょうか。我々教員はその期待に答える必要があるでしょう。一方、なんとなく大学にやって来た人やいまだ進むべき方向や興味の対象を模索中の人に対して、図書館をはじめとした大学施設の積極的な利用をすすめることも、きっと、我々の大切な仕事なのでしょう。

実際に学生の皆さんが図書館を利用する目的は多岐にわたることでしょう。ある時はいろいろな意味で将来への投資として自分を高めようと図書館を利用し、ある時は図書館の利用自体から満足を得ているでしょう。講義のレポート作成、定期試験・資格試験の勉強。仕事に役立てたいと実務書に目を通す場合、カラオケに行くにも時間が中途半端だし、図書館に行って時間をつぶそうかという場合。

そんな中で「超」利用法を与えて利用を説得することは私の能力の限界を超えます。「超」利用法はそれぞれで考えて下さい。「広告宣伝活動」には「情報提供型」と「説得型」とがあると言われますが、ここでは私なりの情報提供をしたいと思います。

私が学生の皆さんが利用したならばいろいろな意味で役に立つと思うのは新聞記事や雑誌の検索です。今のところ1日5～6人程度の利用ということですが実際使ってみると大変便利なものです。論文・レポート作成のみならず、就職活動や皆さんの趣味に対しても参考となるでしょうし、検索する行為自体、新たな感動を与えてくれるかもしれません。

なんとなくパソコンアレルギーがあるとかさしせまった必要性がないとか、使い方がわからないとかで利用が進まないのでしょうか。でもやってみると簡単です。例えば、96年の日経新聞のCD-ROMをカウンターで借り、一番左のパソコン（IBM1）で検索する場合です。スイッチを入れてWindows3.1が始

まったら、プログラムマネージャーのウインドウを開きます。次に、CD-ROMをセットして日本経済新聞のアイコンをダブルクリック→日経新聞インデックスのアイコンをダブルクリック→F1キーを押すと「日経全文記事データベース」の画面です。ここでキーワードの人力のために入力形式を「カナ半角」にします（Shiftキーと「カタカナひらがな」キーを同時に押して「カナ」、左上隅のキーで「半角」を選択）。さて、半角で「デンキジドウシャ」と入力して検索（F1を押す）してみましょう。「97件ある」と出ます。F4を押して一覧が出ます。せっかくだから7番めの「ハイブリッド車って何？」を読んでみましょう。↑↓で選択して、改行（Enter）で選択を確定させ、F2を押すと、記事の全文が出てきます。

読み終わったらF1を押して前画面に戻ります。他に読みたい記事があれば同様に操作してください。今度は終わり方。F9→F2、F9→F2とやって検索ソフトを終了、CD-ROMを取り出します。最後にプログラムマネージャーのウインドウにして左上隅をダブルクリック、Windowsを終了して、スイッチoff。

私としては、皆さんが図書館を利用すること自体ではなく、利用した結果に興味があります。資格を取るためや仕事に役に立つ資料を利用して目的を達成してくれるのはもちろん、皆さんが図書館の利用を通じて「知的な喜び・驚き」を感じてくれたならば私も大きな喜びを感じます。「へー面白いもんだ」とか「ほう、なるほどね」とか…。学問上の喜びでなくてもよいのです。これをきっかけに、図書館のパソコンのスイッチを押して新聞検索のソフトを動かしてみたという人が1人でもいて「面白いな」と思ってくれたなら、そして、「超」利用法の一つとして加えてもらえたなら、大変うれしく思います。

夏が来れば思い出す『ファウスト』

行政社会学部 後藤 史子

アメリカ文学を勉強してもう数十年経ったが、テレビ第一世代の私が若い頃「文学」と出会うには、きっかけが必要だった。テレビや映画はそのきっかけを作ってくれた。中学生時代ローレンス・オリヴィエ主演の映画『ハムレット』をテレビで見て感動し、翻訳をむさぼるように読んだものだ。スタインベックの『怒りの葡萄』を読んだのも、ジョン・フォード監督の同名映画を見たことがきっかけだった。

ゲーテ作『ファウスト』との出会いも、パフォーマンス(?)に参加することがきっかけとなった。大学時代、有志の学生が集まって文学の自主ゼミを作り、独文の教授に指導をお願いした。そこで読んだのが『ファウスト』だが、ただ黙って読んで感想を発表しあうなどという生易しいものではなく、なんと、役を決めて翻訳を朗読し合うのだ。誰に見せるわけでもないが、ふりのつかない演劇みたいなもので、合宿と称して夏の盛り長野まで出かけていき、山の中だの、寺の境内だの、民家の庭だので大声出して読み合わせをする。思い出す



と恥ずかしさで冷や汗が出る。

こうした変わった出会い方をしたこの本は、私の文学への興味をかき立ててくれた一冊だ。学問を究めたファウストが世俗のことをもっと体験しなければ、と思ひ悪魔に魂を売るところは、大学に入ったばかりで人生経験に飢えていた私にはとても魅力的だった。また、理想国家の夢を抱きながらも実際は民衆を苦しめる政治しかできないファウストの失敗は、今だに掛かるものがある。さらにあの自由奔放なワルプルギスの夜の場面。言葉で表現された想像力の凄さを知ったのは、あれが最初だった気がする。

多様なメディアが入り乱れる現在、若い世代が文学と出会う機会は、私の学生時代よりも少なくなっているように思う。しかし、メディアにはそれぞれの良さがあるわけで、言葉で表現された想像の世界に遊ぶ機会もまた、失いたくないものである。

(助教授 比較地域文化)

「卒業論文作成のためのガイダンス」を終えて

学術情報係

夏休みを目前にした、7月16日、18日の2回、そろそろ卒業論文のテーマもしぼれてきた三年生を対象に行いました。参加者は約30名。内容をご紹介します。

- 1 ビデオ「図書館の達人」から「レポート・論文のまとめ方：レポートをまとめる10のステップ」の視聴
「テーマの選択」から、「仕上げ」までの、着実なステップクリアの解説です。
- 2 文献検索の方法と収集について
配付資料「資料ガイド」にそって、新聞・雑誌・図書と、それぞれの検索の方法、収集について、実際に参考資料を手にしなごら説明を行いました。
- 3 CD-ROMを使った検索の実際
「雑誌記事索引」「CD-HIASK」等を使い、実際に検索をしてみました。
- 4 閉架書庫案内
三年生の7月から入庫検索が可能になります。「書庫の中がよくわからない」という利用者の声に答え、今回からオプションで実施しました。

大学生活における総決算ともいえる「卒業論文」の作成ということもあり、パソコンの操作等、様々な質問もありました。また、熱心にメモを取る姿もみられました。今後の参考にアンケートをお願いしましたところ、「CD-ROMによる検索をやってみて、今後、使えそうだった」「これから図書館を有効活用していくキッカケがつかめた」「卒論を書く上で大変参考になった」等、おおむね好評で主催者としては、ほっとしたところです。

また、一方では、「詳しい検索の方法を三年になって初めて知り、もう少し早く知っていたらという気持ちもあった」「卒論のためばかりでなく、初めてのレポートを書くための、初心者むけのガイダンスも行ってほしい。今日まで、行き当たりばったりの「可」がもらえる程度のレポートしか書いてこなかったの、これを一年の初めに知っていたら…と悔やまれてならない」等の感想にどう答え、利用者に対しての側面的援助をどう展開していくかが、今後の課題として残されました。

パリの大学図書館

行政社会学部 晴山 一穂

1995年3月から外地研究の機会に恵まれ、ほぼ2年間にわたってパリで過ごしてきました。「歴史上の階級闘争がつねにほかのどの国よりも徹底的に、決着まで戦いぬかれた国」、「つぎつぎと交替する政治的諸形態が最も明確な輪郭をとってきた国」というエンゲルスの言葉(マルクス『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』第3版への序文)に魅せられ、学生時代からなんとなくあこがれていたフランスでの初めての留学生活。そこから私なりに得たことは非常に多かったのですが、ここでは、パリの大学図書館のことを少し書いてみたいと思います。

私を受け入れてくれた大学は、パリ第1大学。かつてパリ大学といえは多くの学部を傘下におくフランス最大の国立総合大学でしたが、1968年のいわゆる5月革命の際の大学改革によって従来の学部がそれぞれ一つの大学として独立することになったため、大学の数もその後著しく増加しました。現在パリとその周辺には第1から第13までの大学がありますが、多くは人名などを冠した別称をもっており、パリ第1大学は地名を冠してパンテオン・ソルボンヌと呼ばれています。大学の建物はパリ第2大学と共用でパンテオン宮殿の目の前にありますが(写真参照)、この建物の周辺に大学図書館が3つ置かれています。私は、このうち、法律・経済を中心とする百万冊の蔵書を有するキュジャス(Cujas)図書館を主に利用していました。

ところで、最初にいって見て驚いたことが2つ。ひとつは、館内が学生で満ちあふれ、机は満杯、周囲は学生の声で騒々しく、コピー機の前は長蛇の列、とても落ち着いて本を読もうなどという雰囲気ではなかった、ということ。もうひとつは、窓口で雑誌を申し込んで待っていたら、係員から「おまえはどうしてそこに立っているのか」と不思議がられたこと。なぜ不思議がるかが不思議だったので尋ね返してみると、雑誌がでてくるまでには40分はかかるのでその頃取りにこいとのこと。ふと上を見たら、よく病院の薬局の窓口にあるような番号がいっぱい並んだ巨大な掲示板があり、自分の番号が点灯したら窓口で雑誌が届いたという印との説明。なるほど私の前には何十人もの未点灯の先客が控えており、これでは時間がかかるのも無理はない、と暫時外に出てパンテオン前のカフェでワインを一杯。

ここにも示されるように、パリの大学図書館の特徴は、思ったよりも施設が貧困で利用も不便である

ということ。ちなみに、ボンピドーセンターの中に一般人向けの大きな図書館があるのですが、そこもまた、席を確保するために長い列を作って待つ学生で毎日満ちあふれているという状況。その女性館長さんは、「大学図書館でもないのに一日1万人の利用者の大半が学生で占められるのは何という逆説か」とぼやいています(95年10月19日付けパリジャン紙)。もっとも、パリから新幹線で西に1時間ちょっとのポワチエ大学の図書館は近代建築で席数にもかなりゆとりがあったので、上の事情はパリや大都市部の大学に固有のことなのかも知れません。

ちょっと話はずれますが、フランスで驚かされることは、図書館に限らず全体として大学の施設が非常に貧困なこと。95年末には、全国の大学で施設の改善を求める大規模なストライキが戦われました。こうした実状を2年間も見てみると、彼の国の学生たちに心から同情を禁じえなくなります。それと比べてみると、立派な図書館と比較的整った施設をもつ本学学生の何と恵まれたことか!でも、ちょっとまてよ。ひょっとしたら、パリの図書館がいつも学生で満杯なのは利用率がそれだけ高いというのも原因の一つかも知れないぞ。ということは、本学図書館の席に余裕があるということは逆にそれだけ学生が利用していないということではないのか、もしそうだとしたらこれはゆゆしいことだぞ……なぞという考えが今ひょっと私の頭をかすめてきました。よし、今度パリにいったときは、パリ大学の学生の図書館利用率を調べてみよう。そして、それと本学学生の場合とを比較してみなければ……。



<写真解説>

パリ第1大学正門。看板には、昔の「パリ大学法学部」の名称がそのまま残っており、その上方には「自由、平等、博愛」という大革命以来の共和国の標語が刻まれている。本文に記したキュジャス図書館はこのすぐ後方にある。なお、前の人物は、外地研究でパリ訪問中の中川弘経済学部教授(右)と筆者。

ホームページ開設のお知らせ
<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp>

学術情報係

7月下旬、本館のホームページが開設しました。他の国立大学図書館の状況を見れば、ようやくといった感じでしょうか。内容的にはまだまだ未完成のものがたくさんありますが、これからこの新しい道具を使ってユニークで役に立つ情報を提供して行きたいと思っています。

それでは簡単に内容を見てみましょう。

お知らせ…その時々を利用上的お知らせ、また図書館からの最新の情報をお知らせします。

利用案内…主に本館利用案内「図書館を利用するために」をもとに作成しましたが、よりビジュアルに図書館の利用方法、施設の紹介をします。

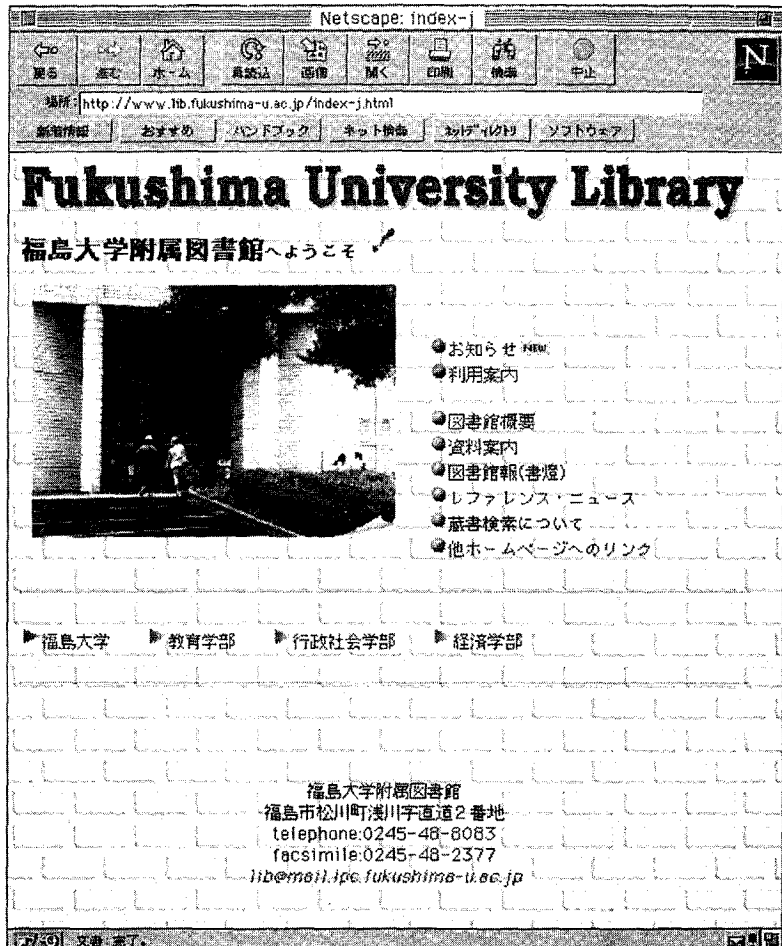
図書館概要…沿革、組織、蔵書統計、利用統計など本館を知る基礎的な情報です。

資料案内…本館所蔵の資料紹介をします。現在は文部省から予算の配分を受け購入した「大型コレクション」の概要を掲載しています。今後本館の特色ある資料の紹介を企画していきたいと思っています。

図書館報(書燈)…言うまでもなく本誌のことです。この号(19号)からホームページでもご覧になります。

レファレンス・ニュース…図書館を有効に活用していただくための様々な情報(文献の調査、収集、CD-ROMの検索法など)を提供するものです。

蔵書検索について…来年1月、システムがサーバー



に移行することによりWWW版OPACを提供する予定です。もう少しお待ちください。

他ホームページへのリンク…図書館関係を中心に、様々な学術情報を得るサイトへの入り口にリンクさせていただきました。作成された機関の皆さんに感謝!

というわけでまだまだ未熟者ですが、これから徐々に内容の充実をはかって行きたいと思えます。

ご意見は
lib@mail.ipc.fukushima-u.ac.jp
 までお寄せください。

学内教官著作寄贈図書を紹介

『地場産業』

—地域からみた戦後日本経済分析—

東京 新評論 1996. 10

下平尾勲著（経済学部教授）

地域には、人々の生活の必要を充足するため、桶樽、和紙、竹細工等多くの地場産業があった。わが国の高度経済成長、不況、石油危機や国際化のうねりの中で、その多くは衰退、消滅した。そこでわが国の戦後の大きな節目に焦点をあて、地場産業がどのように変化し、生きのびてきたかを研究したのが本書である。

その場合、地場産業の成長、発展ではなく、衰退・消滅という視点から研究した。地場産業の衰退条件は成長条件の中で形成され、成長条件そのものであった。衰退条件に着眼して振興政策を考えた。

またわが国のリーディング産業に対して、受動的、忍従的な行動を余儀なくされ、相対的に軽視されてきた地場産業・地域産業の視点から、日本経済の動向を分析した。経済成長の出発点は、通説とされている1955年ではなく、1968年からであった。

（請求番号602. 1 / SH51Z 学内刊行物コーナー）

『マルクス・エンゲルスの思想形成』

—近代社会批判の展開—

東京 創風社 1997. 4

中川弘著（経済学部教授）

本書は、初期のマルクスとエンゲルスの主要な著作や論文等に即して、両者の社会・経済思想の形成の歩みを考察した論文10編を収録したものである。

本書の内容は、人間の自己疎外論を中心としたマルクスによる近代社会批判の展開（第一篇）、唯物論的歴史観の確立＝唯物論的歴史把握の基礎視座の確立（第二篇）、エンゲルスによる近代社会批判の展開とその内容のマルクスとの異同（第三篇）、両者の経済理論の形成＝1840年代の到達点の確定（第四篇）、という四つの柱から構成されているが、全体を通して、近代社会の揚棄の上に到来する未来社会が、人間を自己疎外から解放するという意味での「人間解放」を、歴史発展の必然的所産として実現するという、両者の将来展望の内容の骨格がどのようなものであったかが検討され、解明されている。

（請求番号309. 3 / N32M 学内刊行物コーナー）

脱「コンビニ」の書？

『フランス革命と財産権』

東京 創文社 1997. 2

田村理著（行政社会学部助教授）

図書館に献本した拙著は、現代日本の憲法解釈学の問題意識で、フランス革命史の中の財産権概念を歪めるのはよそう！と主張する本だ。歪みの原因の一つは、「役に立つ」コンプレックスだと思う（『創文』No.388参照。*ご希望の方には差し上げます）。

学生さんからは、「わかりやすく、面白くて、役に立つ」授業を求められていると、つくづく感じる。いつでも、何でも、すぐ、そこそこ揃う「コンビニ」のようなやつだ。法学界でも、外国法の研究をほぼ必ずやるが、それが必然的に日本の法解釈に役立つことになっている。いたって「コンビニ」だ。

僕は化学調味料たっぷりの「コンビニ」弁当に最近少し食傷ぎみだ。自分のもつ「わかりやすく、面白くて、役に立つ」という価値それ自体を問わない学問は、「コンビニ」弁当と一緒にすぐ飽きる。本来、学問的作業はけっして「コンビニ」ではない。

拙著では、「便利な」化学調味料を使わず、てま暇かけて、素材の味を引き出そうとしたつもりだ。「コンビニ」に飽きた人に、ためしていただきたい。

（請求番号323. 3 / TA82F 学内刊行物コーナー）

【訳書】

『全訳 統治論』／ジョン・ロック著

東京 柏書房 1997. 3

伊藤宏之訳（教育学部教授）

（請求番号311/L78Z 学内刊行物コーナー）

『M. ウェーバー ロシア革命論 I』

名古屋 名古屋大学出版会 1997. 4

雀部幸隆／小島定訳（行政社会学部教授）

（請求番号238/W51R 学内刊行物コーナー）

図書館では学内関係者の著作物を収集しております。出版されました際は、ぜひ図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

「COUNTER BALANCE」

カウンター
の内側から

大学院地域政策科学研究科
浅井 千絵

これは、まだ私がアルバイトを初めて日が浅かった頃のお話です…。

カウンターには常に2人座っていて、貸出・返却業務も2人で行うのですが、どう考えても毎回私の担当曜日は、私ではなく相手の方が忙しく働いている事の方が多いなあ…と。これは一体!?!と気持ちよっと真剣に考えてみることにした。

さて、考えられる理由その1は、単純に「優しそうな人」の方へ利用者が流れていく…。その2として男女問わず利用者の「好みの人」の方へ行く。その3として、暇そうな方(いつも暇そうな人という意味ではないので誤解のないように…)、つまり「すぐに手続きをしてくれそうな人」の方へ行く。

ふーむ、確かにその1に関して、私は慣れない大学院生活がたたってか、いつも寝不足の恐い顔をしている事が多かったし、その2についても好みの問題であれ、女の子にもかかわらずノーメイクの時が多かった。おまけに、カウンターいっぱいにもものを広げていかにも忙しそうなお様子も多かったなあ…。

と、ちょっと真剣に考えてみたら、大変な状況であることに気がつき、急ぎよ改善すべく私は「日替

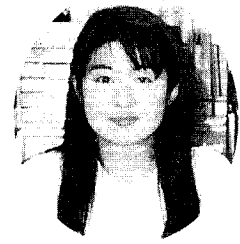
わりメニュー」作戦を試みた。

まず、一日目、前日いやというほど睡眠をとり、すっきりとした顔でアルバイトに望んだ。結果は変わらず…。めげずに二日目、きちんと化粧をしてみた。結果は変わらず…。

もう、なんでもこい!!と、三日目、カウンターの前をすっきりさせた。結果ちょっと変化があったかも…。

そんなこんなで、作戦も失敗に終わり、時が流れたある日。今日はやけに私の方ばかりに人が来るなあ、と思ったその時、「こっちが返却ですよね」と一言。え、ここって貸出・返却の区別があったの?びっくりした私はカウンター外側に行ってみた。すると、カウンターの上に外側から向かって左に貸出、右に返却と表示されているではないですか!そうです。一人だけが異常に忙しく見えたのはこのせいだったのです。日によって貸出が多い日もあり、返却が多い日もあるということなのでした。

みなさん、貸出・返却はどちらでもどうぞ!!



大塚久雄氏の蔵書 本学図書館へ

館長 渡辺 義夫

去年7月9日、朝日・毎日・読売の各紙は、その日未明の氏の逝去を夕刊一面で一斉に報じた。「大塚史学確立」「ウェーバー研究」「文化勲章」などの見出しとともに。

その大塚久雄先生の全蔵書が本学図書館に寄贈された。まことに文字どおり有難く、名誉なことであると同時に、責任の重さを感じている。ご遺族はじめご尽力くださった東大大塚ゼミ同窓会(ヨーマン会)の皆様へ深く感謝申しあげるとともに、これからが正念場の図書館としての仕事にたいする学内関係教官・職員のご協力を心からお願い申しあげる次第である。

今年5月20日第一回「大塚文庫」創設協力委員会に報告されたあら整理による資料概数は、つぎのとおりである。

大塚先生著作物(含、抜刷・パンフ等)	557点
洋図書・雑誌・資料	1926点
和図書・雑誌・資料	6709点
その他、ノート(74冊)、自筆原稿、テープ、ファイル、朝日賞盾、アルバム等々	

以下、経緯の要点を日録風に記録しておきたい。

'96.11.28 樋口徹教授(前館長・経済学部)から連絡。ヨーマン会の幹事会とご遺族とで寄贈先を検討中につき福島大学も、経済学部が大塚先生の代々の門下生との縁が深いので、以下の条件でなら受入れ可能と伝えておいた。①「大塚文庫」は作れない。②別置はできないがリストを作ってお渡しはできる。但しご遺族とヨーマン会としては、できれば「文庫」としての受入れ先をさがしている、とのことであった。12.2 館長・事務長を中心に事例をしらべ学長の示唆も受けつつ、場合によっては「文庫」としてでも受け入れたい旨、樋口教授に伝える。

'97.1.13 図書館として樋口教授に下見依頼。

1.28 図書館協議会で樋口教授の説明を得て「文庫」としての受け入れ方針を決定。

2.1 ご遺族から樋口教授を通じて福大に寄贈する旨連絡あり。

2.18 評議会に経過報告。

4.18 蔵書、福大に届く。ダンボール230箱。

4.22 文庫創設協力委員(3学部から計6名)委嘱。

5.21 図書館職員への小講座「大塚久雄先生の学問と蔵書」(講師:菊地壮蔵教授)14名出席。

～お知らせ～

郵便番号、電話番号が変わります

総務係

☎電話番号（平成9年12月1日から）

市内局番が3桁に変わります。024 - 548 - ****（ダイヤルイン）

館長	8080	情報管理係	8085
事務長	8081	情報サービス係	8086
図書館専門員	8082	学術情報係	8087
総務係	8083		
資料受入係	8084	FAX	024 - 548 - 2377

〒郵便番号（平成10年2月2日から）

新郵便番号制の導入に伴い附属図書館に個別番号が設定されました。

本館あての郵便物は、個別番号が明確に記載されていれば住所を省略することができます。

新郵便番号（個別番号） **960 - 1293****6版(旧分館蔵書)遡及進む!!** —簡略データ3万5千件を詳細化— 情報管理係

本館は、平成元年2月から目録作業を電算処理に移行しました。さらに、4年1月からは、従来のカード目録をデータベース化するため遡及入力作業を開始しました。遡及作業は、8年5月に統一図書館（昭和51年）以降の図書資料を終え、旧分館時代の資料（6版図書）に移りました。6版図書は、既にデータ化してある簡略データがあり、その詳細化から始め、3万5千件を詳細化しました。その結果登

録データは合わせて約33万件が詳細データとなり、簡略データと合わせた全蔵書（製本雑誌を除く）の59.5%が機械検索可能となりました。今後は、旧経済和書、次いで旧教育和書を遡及する予定です。

図書データベースの詳細は、下表のとおりです。なお、簡略データは、分類記号とタイトルのみ検索可能なデータです。

《図書データベースの現状》—平成9年8月末現在—（蔵書数は製本雑誌を除く）

	蔵書数	機械入力数	入力率
図書館業務電算化以降（'88年度以降）	123,344	121,615	98.5%
統一図書館～電算化前（'76～'87年度）	175,570	173,208	98.6%
旧分館蔵書（'75年度まで）	281,994	35,122	12.4%
小計	580,908	329,945	56.8%
簡略データ		15,732	2.7%
合計	580,908	345,677	59.5%

昭和24年～

目録カード併用

遡及入力作業中

昭和51年～

遡及終了

機械検索可能・
目録カードあり




平成元年～

業務電算化

機械検索のみ

附属図書館開館・休館予定表

平成9年10月～平成10年3月

 夜間開館停止 (開館時間 9:00～17:00)
  開館日 (開館時間 9:00～21:00)
  休日
 ●印 休館日

日	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	水	土	月	木 ●	日	日
2	木	日	火	金 ●	月	月
3	金	月 ●文化の日	水	土 ●	火	火
4	土	火	木	日 ●	水	水
5	日	水	金	月 ●	木	木
6	月	木	土	火 ●	金	金
7	火	金	日	水	土	土
8	水	土	月	木	日	日
9	木	日	火	金	月	月
10	金 ●体育の日	月	水	土	火	火
11	土	火	木	日	水 ●建国記念の日	水
12	日	水	金	月	木	木
13	月	木	土	火	金	金
14	火	金	日	水	土	土
15	水	土	月	木 ●成人の日	日	日
16	木	日	火	金 ●大学入試センター試験のため午後から休館	月	月
17	金	月	水	土 ●大学入試センター試験	火	火
18	土	火	木	日	水	水
19	日	水	金	月	木	木
20	月	木	土	火	金	金
21	火	金	日	水	土	土 ●春分の日
22	水	土	月	木	日	日
23	木	日 ●勤労感謝の日	火 ●天皇誕生日	金	月	月
24	金	月 ●振替休日	水	土	火	火
25	土	火	木	日	水	水
26	日	水	金 ●	月	木	木
27	月	木	土 ●	火	金	金
28	火	金	日 ●	水	土	土
29	水	土	月 ●	木		日
30	木	日	火 ●	金		月
31	金		水 ●	土		火

※ 臨時に閉館する場合、及び開館時間を変更する場合は掲示します。

目次

- ・ 図書館の「超」利用法を見つけて
生活をより面白く……阿部高樹(1)
- ・ 思い出の一冊
夏が来れば思い出す『ファウスト』…後藤史子(2)
- ・ 「卒業論文作成のための
ガイド」を終えて……学術情報係(2)
- ・ パリの大学図書館……晴山一穂(3)
- ・ ホームページ開設のお知らせ……学術情報係(4)
- ・ 学内教官著作寄贈図書を紹介……(5)
- ・ カウンターバランス
—カウンターの内側から—……浅井千絵(6)
- ・ 大塚久雄氏の蔵書 本学図書館へ……図書館長(6)
- ・ お知らせ～☎、☎番号が変わります……総務係(7)
- ・ 6版(旧分館蔵書) 遡及進む……情報管理係(7)
- ・ 附属図書館開館・休館予定表
(平成9年10月～平成10年3月) ……(8)